

1. 副都心線効果は新宿、原宿に軍配上がる

6月14日都内で14路線目の副都心線が開通しました。明治通り沿いを通過し埼玉から渋谷(12年には東急とも連結)を結ぶ新路線で、渋谷～池袋が11分と便利になりました。明治通りに沿って走る為、明らかに来街者が増えたエリアは原宿と新宿3丁目です。原宿のラフォーレから竹下通り先のセコム本社辺りまでは以前に増した混雑です。新宿3丁目は正にこの路線が伊勢丹線と呼ばれるのがうなずける賑わいで、改札からなんと2分で伊勢丹地下入り口です。開通時は伊勢丹が20%増、高島屋が30%増との発表でしたが、伊勢丹のMD力と駅からの利便性で高島屋(地下で繋がったが遠い)とのこのエリアでの百貨店戦争は益々、伊勢丹優位に差がつく予感です。一方更に厳しくなるのは池袋駅周辺で特に西武、パルコは新線の駅から遥かに遠く不便で対新宿戦では苦戦を強いられそうな状況です。池袋に関しては丸井、東武、メトロポリタン側が西武側より新線駅に近い為、優位にたてるはずですが基本的にはJRの巨大なターミナル、新宿、池袋、渋谷の駅中心は変わりません。今後はエリア競争と言うよりは如何にして各社が自社のコンセプトを明確にし、MD力、CS力、ES力をつけ広域からリピーターに来館していただける施設にするかが勝負と言えるでしょう。副都心線が開通するまで新宿駅から遠く利便性が悪かった伊勢丹が圧倒的に強かったように、又日本一の乗降客新宿駅の駅ビル「マイシティ」がルミネに合併し駅ビルから高感度ファッションSC「ルミネエスト」に変え驚異的な伸びをしているように。

2. 「潮目が変わった」深刻な市況の低迷のなかでアパレルは？

アパレルの経営トップの参加する会合やパーティーで、必ず出るのが「潮目が変わった」と言う話です。国語辞典によると「潮目」とは寒流と暖流のように非常に性質の異なる潮流の境界のことを言うようですが、その潮目が今年の9月から変わったと言われているようです。

確かに今年の9月頃から、消費市況は深刻な低迷をつづけています。石油をはじめとする原料、食料品など物価の値上がりは消費者の購買マインドを押し下げていることは諸データが示すとおりです。

大手上場アパレルの07年決算では、減収・減益企業がほとんどで、同時に発表された中期計画でも、これまでの増収路線から利益重視の路線転換といえるものになっていますし、国内市場では大きな伸びは期待できないとの認識も広がっています。

「四半期の業績次第で下方修正せざるを得ない」と今期の見通しも不確実な企業が多く見られます。「うちのシェアが下がっているのではない、マーケット全体が悪い」というのも共通認識のようです。アパレル企業のシェアは大手上場企業といえども消費市場全体から見れば小さなものですし、これまでの攻めの姿勢はどこに行ったのでしょうか。

「どんな『潮目』になるのか？お客様がモノだけではない何かを求めている」と模索する経営トップに会えたのが救いと言えます。

3. NY で見た世界のファッションの流れ

プライムローンの影響よりも世界的には原油高による諸物価のインフレで庶民の生活が一挙に圧迫されているようです。NY 市民はユニオンスクエアのホールフーズよりスクエアの露天の市場に安く、新鮮な食材を買いに来ます。ファッションも一般大衆的には同様な傾向でソーホーのブロードウェイ st に進出した世界のポピュラープライスショップの動向を見るとこれからの流れがわかります。今やソーホーの地価、家賃は5番街について高く、メジャーで資金力がある企業でないと出店できません。6月1日(日曜)の午後2時~3時の買い物ピーク時に各店を回ってみました。混んで、レジ待ち人数の多い順番に列挙しますと①FOREVER21(50名)②Jクルー(20名)③H&M(15名)④OLD NAVY(10名)⑤ユニクロ(3名)⑥エスプリ(0名)⑦リミテッド(0名)⑧KIRA(0名)でした。

圧倒的に FOREVER21が支持されているのがよく分かります。同社のポイントは何処よりも「旬」、「追加発注はしない」「売り切りごめん」「店はかっこ良く」「価格は H&M より安く」等なのです。又、クリエイティブディレクターを変え、ベーシックを禁止した Jクルーも驚異的な伸びです。このエリアを定点観測すると世界の流れがわかります。

4. NY「スカースデールマミー」に注目

NY郊外の高級住宅地はスカースデール(Scarsdale)といい、ウェストチェスター郡(Westchester Country)に属し、位置的にはホワイトプレインズ(White Plains)のほぼお隣です。友人などは冗談でそこに住む主婦の方々をスカースデールマミーと呼ぶのですが、彼女たちは優雅なライフスタイルを満喫しており、ご主人はたいていマンハッタンに勤務しています。住宅価格はかなり高く、100万ドルクラスの家も珍しくないほどです。NY近郊ではウェストチェスターはスカースデール、コネチカット州ではグリニッチ(Greenwich)と呼ばれるタウンが富裕者層の集まる地域で、グリニッチのあるフェアフィールド群(Fairfield County)は全米でも5位に入るお金持ちの郡となっています。ちなみに2位はマンハッタン、ウェストチェスターは12位です。スカースデールの住民はマンハッタンで買い物をすることも多いのですが(車で1時間弱、電車では45分ほど)、近場ではウェストチェスターモールに出かけることが多いようです。このウェストチェスターモールは、玉川高島屋SCが長い間モデルにしていたSCであります。尚、ホワイトプレインズにはこうしたスカースデールマミーを対象にしたホールフーズやターゲットなどもあります。彼ら富裕層のライフスタイルからも世界の流れが見えてきます。

http://en.wikipedia.org/wiki/Highest_income_counties_in_the_United_States

5. もう一度行きたくなるペニンシュラ東京

アフタヌーンティーの行列が平日はなくなり、ロビーはオープン当時からすると静かになったペニンシュラ東京にホワイトティ梅田商店会のオーナー会にご招待され宿泊しました。

香港、ビバリーヒルズのペニンシュラに比べ部屋がより素晴らしい点にびっくりです。内装はペニンシュラスタンダードに加え、和の文化を調和させ、天井、壁、照明、バスルーム等に取り入れ、落ちついた57平米の快適で機能的な空間です。感心した点を列挙します。空調で湿度調整がウエットからドライまで出来ます。通常ホテル内は乾燥しきって寝る時に湯船に湯を張ったり、タオルを濡らして枕もとに置いたりがここではする必要がありません。クローゼットルームが広い。電話がなんと6台。靴磨きのサービス(バレーボックスに靴を入れておくと翌朝奇麗に磨かれ、ペニンシュラのバックに入れて新聞と一緒にバレーボックスに届きます)。イタリアのエスプレッソコーヒーマシン LAVAZZA が全ての部屋にあり気軽に美味しいコーヒーが飲める。ベッド脇の読書灯

が機能的で本が読みやすい。窓際に二人用ダイニングテーブルがセットされ食事もし易い、等々です。ロビーや24階のバーはペニンシュラらしくなくチープでカジュアルですが部屋の居心地はリッツカールトンより気持ち良かったです。

6. Piatto Suzuki

麻布十番の商店街の豆源のすぐ近くのビルの4階にあるイタリアンレストラン「ピアットスズキ」。「ヴィノ・ヒラタ」のメインシェフから数年前独立したスズキ シェフのお店はカウンター4席とテーブル5つのたった18席の小さなレストラン。全てのお客様の様子を見ながらお料理を出したいというシェフの考えで、どの席からも見える オープンキッチンになっています。その心意気の通りお料理が出てくるタイミングは絶妙。全てアラカルトで好きなだけ食べられるのでシェアして色々なお料理をいただくのがお勧め。

注文する時にシェアしていただきますというと、全てお皿に分けて持ってきてくれる。この心遣いが嬉しい。ホールの方々は皆とても感じがよく、気持ちが良い。お料理はどれもとても美味しい。まずはアペリティフと一緒にオリーブとピクルスとパンが出される。パンもライ麦風、デニッシュ風、バゲット風、と6種類位出される。すべておいしい。プリモのパスタのメニューも豊富だが面白いのはパスタとリゾットのメニューの下に「お好きなように」と書かれている欄があります。これはこんな感じのパスタが食べたいというシェフが注文に応じて作ってくれる。このパーソナルなサービスがとても嬉しい。メインのお勧めは定番メニューの子牛のカツレツ。コトレッタ・アラ・ミラネーゼのような薄い薄いカツレツを想像していたのだが、ここのコトレッタはころっとして似て非なるものでした。少し不安になったがこれが又何とも言えず美味しい。ポーションも多すぎず少なすぎずちょうど良い。ワインも色々そろっていて、グラスでもバルバレスコをはじめとても美味しいものをいただける。間違いなく行き着けにしたいレストランでした。予算は1人¥13,000～。

東京都港区麻布十番 1-7-7 はせべやビル4F 03-5414-2116

営業時間: 18:00 ~ 26:00 定休日: 日曜日・祭日